

## 2024年2月NHK中央放送番組審議会

2月のNHK中央放送番組審議会は、19日(月)、NHK放送センターにおいて、15人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、経営計画における「達成状況の評価・管理」(2023年度第3四半期・10～12月)について説明があった。続いて「2024年度国内放送番組編成計画」についてと、「インターネット活用業務実施計画」について説明があり、その後、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、今後1か月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	佐倉 統 (東京大学大学院情報学環教授/理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー)
副委員長	安河内賢弘 (JAM会長)
委員	秋本 可愛 (株式会社Blanket代表取締役)
	小沢 秀行 (朝日新聞社論説副主幹)
	岸田 奈美 (作家)
	崎村 夏彦 (OpenID Foundation理事長)
	椎木 里佳 (株式会社AMF代表取締役社長)
	末富 芳 (日本大学文理学部教授)
	富所 浩介 (読売新聞東京本社論説副委員長)
	仲條 亮子 (グーグル合同会社執行役員/YouTube日本代表)
	萩原 智子 (日本知的障害者水泳連盟副会長/シドニー五輪競泳日本代表)
	橋本 麻里 (公益財団法人小田原文化財団 甘橘山美術館開館準備室長)
	廣田 康人 (株式会社アシックス 代表取締役会長CEO)
	藤江 太郎 (味の素株式会社 代表執行役社長 最高経営責任者)
	向井 千秋 (東京理科大学 特任副学長)

### (主な発言)

<経営計画における「達成状況の評価・管理」

(2023年度第3四半期・10～12月)について>

- 放送の接触者率が減少傾向にある中、NHKプラスの利用者が増えている。テレビ業界全体の規範となるようなインターネットサービスを考えてほしい。

- NHKプラスに関しては、視聴UB（ユニークブラウザ）数だけでなく、滞在時間や流入元も分析し、質の向上につなげてほしい。

（NHK側）

NHKプラスの滞在時間は週単位で分析している。これからそのような指標をしっかりと見て、活用していく。

< 2024年度国内放送番組編成計画 および  
インターネット活用業務実施計画について >

- 番組の内容自体は大変充実している。NHKプラスで配信することで、学びを支援する教材としても活用できると思う。ただし、どのメディアでどのような番組を放送しているのか、全体像が分かりにくい。見たいコンテンツにたどり着きやすくするための誘導策を充実させると、より多くの人に視聴してもらえるのではないか。
- 「2024年度国内放送番組編成計画」では個別に取り上げていないが、「ETV特集」は独自の視点を持った良質な番組だ。今後も放送を継続してほしい。
- NHKがインターネット活用業務を行う使命の一つに、「次世代を育てる」ということがあると思う。最近では、海外のデジタルコンテンツを視聴して育つ子どもが多いと聞くが、それらは日本の文化とはかけ離れた内容であることも多い。日本の子どもたちには、NHKの教育コンテンツにいつでも自由にアクセスできるような状態であってほしい。「NHKキッズ」「NHK for School」などのコンテンツをNHKプラスでまとめて見られるようにすることなども一案ではないか。  
また、特にテレビを視聴しない若い世代に対して、放送やNHKプラスの視聴につなげる方法を考えていく必要がある。NHKプラスの視聴UB数だけでなく、滞在時間や流入元も分析し、それらのデータを指標に反映していくことが、今後の展開につながると思う。災害時にNHKプラスでニュースのライブ配信を見てもらえるようにするためにも、「ここに行けば正しい情報がある」とふだんから認知度を高めておくことも重要ではないか。
- 2021年の東京パラリンピックの放送で、試合が始まる前に短い映像で競技ルールの説明をしていた。大変分かりやすく、競技の楽しみ方という側面にまで踏み込んだ内容で、印象に残った。今後のパラスポーツの放送では、そのような映像を試合前に放送するだけでなく、試合中にもインターネット上で参照できるようにしてほしい。東

京パラリンピックでは、NHKの放送がきっかけで、寄付が集まったり、サポーターが増えたりしたという話も聞いた。パラスポーツは、楽しむポイントが分かれば分かるほど、競技を支えるファンも増えると思う。そのためにインターネットを活用して行ってほしい。

- 国民の財産となるようなコンテンツを数多く作っていると思う。視聴者がそれらにいかによりどりけるようにするのが重要だ。見たいコンテンツにたどり着くための誘導策の充実が必要だという意見には同感だ。放送中のものだけでなく、過去のコンテンツにも手が届くとよいと思う。NHKプラスの見逃し配信、NHKオンデマンドなど、どのような媒体で見ることができるのか、少なくともテキスト情報では参照できるようにしてほしい。
- 若い世代に広がりを持たせるためにはさまざまな手法があると思う。まずは若い世代の視聴動向について、10年程度のスパンで傾向値を見てみてはどうか。

(NHK側)

さまざまな視聴者に見てもらえるよう、適切な規模でプロモーションを試行錯誤している。頂いた意見を踏まえ、今後も取り組みを続けていきたい。

(NHK側)

「次世代を育てる」コンテンツの充実や若い世代へのアプローチなど、いずれも大切な視点だと思う。インターネット上にパラスポーツの解説動画を掲載することについても、今後の参考にしたい。

(NHK側)

パリオリンピック・パラリンピックに向けては準備を進めている最中だ。頂いた意見をしっかりと共有し、生かしていきたい。

<放送番組一般について>

- 1月20日(土)のNHKスペシャル「まちづくりの未来～人口減少時代の再開発は～」を見た。知的好奇心を揺さぶられる内容だったが、スタジオの専門家の意見が大

局的すぎるように感じられた。「若者たちが生きる未来のために何が必要か」という問いに対して、専門家から「半径5メートルでもよいので、自分の力で社会が変わっていく経験をさせてあげたい」というメッセージがあり、若者の心に響くことばだと思った。一方で、若者が、自分が住む街へ対して持つ価値観を変えていくことが大切で、自分たちが本当に住みたい街はどのようなものかについて、新鮮な視点の意見も聞けるとなおよかった。

(NHK側)

映像で全国各地のさまざまな事例を紹介したが、スタジオのやりとりでは大きなグランドデザインの話が中心になっていた。若い世代の視点を入れるなど、より工夫ができたかもしれない。

- 1月27日(土)のNHKスペシャル「“学校”のみらい 不登校30万人から考える」を見た。2部制になっていたが、1部の内容が2部でもダイジェストで流れ、重複感があった。紹介された意見の中に、「不登校問題が深刻化する中で、学校のシステムそのものが限界に来ている」という旨の指摘があった。不登校問題を考えるにあたっては、この番組で紹介された取り組みのような選択肢を紹介して、当事者へ希望の未来を示す視点があるが、それだけでは不十分で、法律や財源の問題なども含めて考える必要があると思う。それらをクリアにすることなく、多様な学びの選択肢が公的に保障されることはないと思う。そのような視点の番組もあわせて放送してはどうか。

(NHK側)

さまざまな論点があるので、課題を一つ一つ整理して取り上げていきたい。子どもの教育は社会全体にとって大切だということも発信しながら、引き続き取り組んでいきたい。

- 2月11日(日)のNHKスペシャル「驚異の庭園～美を追い求める 庭師たちの四季～」を見た。事前の番組告知で、「サラメシ」に出演していた足立美術館の庭師が取り上げられることを知り、興味を引かれて視聴した。子どもたちの関心を引くきっかけにもなると思った。

(NHK側)

「サラメシ」からこの番組を知ってもらえたことはよかった。今後もこのような番組どうしの連携に取り組んでいくつも

りだ。

- 「ニュースウォッチ9」を見ている。1月17日(水)の放送を最後に青井実アナウンサーが突然降板し、その後、兼職を禁止する服務準則に基づいて嚴重注意を受けていたことがほかのメディアで報道された。視聴者の後味が悪い降板のしかただと感じた。「ニュースウォッチ9」でも、企業や政治家の不祥事を報じる際には説明責任を指摘していたと思う。少なくともホームページ上では公式なコメントがあっべきではなかったかと思った。

(NHK側)

指摘を受け止め、今後の対応のしかたなど参考にしたい。

- 1月31日(水)のプロフェッショナル 仕事の流儀「心までをも、つなげてこそ～再建外科医 山本匠～」を見た。損傷した体の一部をよみがえらせる医師を取り上げていて、胸が熱くなった。これほどまでに素晴らしい日本人医師がいることを初めて知った人も多いのではないだろうか。「プロフェッショナル 仕事の流儀」は国際放送でも放送しているが、ぜひ積極的な海外発信を進めてほしい。また、患者のありのままの痛々しい傷口の映像を見て、信頼関係があるからこそ撮影が許されたものだと感じた。これからも、取材対象者に真摯(しんし)に向き合った番組を楽しみにしている。

(NHK側)

「プロフェッショナル 仕事の流儀」は海外発信も行っている。今後も、日本の優れた人物や仕事を世界に訴えていければと思う。

- 2月2日(金)の「NHKニュース おはよう日本」を見た。山口県宇部市の「こども選挙」の様子を伝えていた。NHKは地方の小さな取り組みでもしっかりとニュースで取り上げている。このような体制は今後も維持してほしい。

(NHK側)

地方のニュースは重視しなければならないと考えている。今後も積極的に伝えていきたい。

- 2月2日(金)の首都圏情報ネタドリ! 「“多国籍タウン” 川口市 異例の要望はなぜ?」を見た。川口市には、難民申請が認められず“仮放免”となったクルド人が数

多く暮らしているが、就労や健康保険への加入が認められず、子どもの教育などの問題も抱えている。国に対する川口市長の不満のことは強く印象に残った。現代的なテーマであるとともに、移民政策にも行き着く難しい問題だと感じた。入管法の改正状況なども丁寧に説明し、結論を押しつけず視聴者に考えてもらおうという姿勢に共感した。この番組は「クローズアップ現代」に似た印象だが、コンセプトに違いはあるのか。

(NHK側)

「首都圏情報ネタドリ！」を放送している金曜日の午後7時30分という時間帯は、各地域放送局が地域向けに地域情報を放送している。この番組は首都圏の話題を取り上げて、首都圏向けに伝えたものだ。

- 2月5日(月)の映像の世紀バタフライエフェクト「田中角栄 列島改造の夢と転落」の再放送を見た。日経平均株価がバブル期の水準を超えようというタイミングでの放送だった。現代にも残る日本の悪癖のようなものを考えさせる、貴重で意義のある内容だったが、田中角栄本人のインタビュー映像をもっと見たかった。アーカイブを時代に合わせて放送していくことは重要だが、将来のために、現代に生きる人たちの声を残していくことも大切だと思った。

(NHK側)

頂いた意見を参考にし、次の番組の放送に生かしたい。

- 2月7日(水)のクローズアップ現代「追跡・ホストクラブの闇 “売掛金”に追いつめられる女性たち」を見た。ホストクラブへの“売掛金”が支払えず、風俗店で働くことや売春を余儀なくされる若い女性が増えているという内容だった。女性の自己責任という考え方ではなく、悪質なホストクラブが組織ぐるみで囲い込むという、人権にも関わる問題を赤裸々に伝えていた。支払い能力のない女性たちを標的にしている悪質な現場の実態を伝え続けることはもちろんだが、若い女性たちの売春行動の背景にある、経済的な理由や孤独感についても取り上げてほしい。

(NHK側)

悪質ホストクラブの構造上の問題によりやく切り込むことができたと思う。解決策が簡単に提示できない問題だが、引き続き取材を重ね、取り上げていきたい。

- 2月12日(月)の天然素材NHK season2「はやりもの総進撃【あの流行の舞台裏】」を見た。ツチノコ、ハレー彗星など、現代の若者には全く共感できないと感じられるものが当時の人たちの心に響いているのがおもしろい。昨今、若い世代の間では、コンプライアンス意識が薄かった時代の価値観を映す民放のドラマが話題になっている。「天然素材NHK」のようなコンテンツの需要も高まっているように感じる。SNSから話題に火がつくポテンシャルが高い番組だと思うので、番組コメンテーターとして登場する「N井H郎」のSNSアカウントを開設するなど、注目度を高めるためのさらなる取り組みに期待したい。

(NHK側)

NHKにはアーカイブが膨大にあるが、それらを活用した番組を制作しようとする、歴史的な希少性があるものや大きな事件を取り扱ったものばかりを取り上げがちだ。日の目を見ないアーカイブの中に、時代の空気やカルチャーが眠っているのではないかという視点で制作している。このような手法は今後も継続したい。

- 2月11日(日)のエマージェンシーコール～緊急通報指令室～「エピソード7 夜のハイウェイ」を見た。119番の通報を受ける指令室に密着した番組で、救急車有料化の議論もある中でこのような切り口で取り上げたことに感銘を受けた。不適切な理由で救急車を呼ぶ人は、悪意で呼んでいるのではなく、孤立や孤独という精神的な問題が根底にあるのだと思う。エマージェンシーコールは、電話をすると必ずつながり、何らかの行動を起こしてもらえる仕組みだ。有料化などで救急車を呼びにくくしたところで、この人たちが抱える孤独はなくならないし、そこにすがる人たちを減らすことはできないと感じ、視点が広がった。エマージェンシーコールを受ける人たちが雑談している様子も紹介し、緊張と緩和の両面を見せているのもすばらしい。電話をかけるのも人、受けるのも人という点にドラマ性を感じた。

(NHK側)

「かけるのも人、受けるのも人」という点はまさにそのとおりで、制作者もそれを意識している。エマージェンシーコールを受ける人たちの人間的な側面も見てほしい。

- 2月16日(金)の知るしん 信州を知るテレビ「小澤征爾がのこしたもの」(総合後7:30～7:57 長野県域)をNHKプラスで見た。小澤征爾さんと山ノ内町の中学校との交流など、貴重な記録映像を見ることができた。「セイジ・オザワ 松本フェスティ

バル」の影響など、この番組で記録した証言も貴重なアーカイブになると思う。そのようなものがより広く知られるようになるとうれしいと思った。NHKはインターネットでも小澤征爾さんに関連するニュースを発信しているが、芋づる式にまとめて閲覧することができないので、改善を検討してほしい。

(NHK側)

さまざまな課題はあるが、インターネットサービスで求められるのはそのような利便性だと思う。放送とインターネット双方で、情報をより見やすくするための方策を検討していく。

(NHK側)

NHKの各コンテンツをインターネット上でどのように関連付けるのかは今後の課題だ。現在、NHKプラスでは、小澤征爾さんの関連番組を手動でピックアップして「プレイリスト」を作っている。自動的に表示できる仕組みなどの開発を進め、充実を図りたい。

- 2月16日(金)のいわチャン「千年の祭りが絶えるとき～最後の黒石寺蘇民祭～」(総合 後 7:30～7:57 岩手県域)をNHKプラスで見た。1000年以上の伝統があるとされる「黒石寺蘇民祭」が継続できなくなった理由を分かりやすく伝えていた。檀家の信仰心を形にしたものが祭りであり、信仰心に基づく厳格な作法を継承することができないのであれば、祭りは存続できないと紹介していた。宗教の存在感の薄い現代日本で、観光化してしまった祭礼の今後の在り方を考えるにあたり、厳しい問いを突きつける内容だった。この番組と対を成すように感じられたのが、2月11日(日)のこころの時代～宗教・人生～「カムイエロキ 神々が鎮座するところ」だ。三十数年ぶりに復活したアイヌの聖地「カムイエロキ」について、アイヌの人たちがいかにして儀式を復元することに成功したのかをたどったドキュメンタリーだ。両番組を見ることで、異なる側面から祭りが成立するための条件を考えさせられ、2つあってこそこの番組だと感じた。宗教儀礼は内部に踏み込むことが難しく、そこで記録した映像は、文化的にも学術的にも大きな価値を持つ。放送しなかった部分も含めて、何らかの形で活用できるような方法を検討してほしい。2月18日(日)には、福島県浪江町で東日本大震災以来13年ぶりに神社が再建し、祭りが復活したというニュースを伝えていた。これからも地域の祭礼に関する動きを取材してほしい。



(NHK側)

映像記録の大切さについては指摘のとおりだ。資料として後世に残せるようにしたい。

- 2月17日(土)の野口聡一・劇団ひとりの2030月面テレビ「SLIM月着陸成功!イーロン・マスクの挑戦」(総合 後 7:30~8:15)を見た。番組の進行に典型的なジェンダーバイアスがかかっているように感じた。年長の男性が知識の少ない若い女性に教えてあげるというスタイルに見えて、子どもたちへの影響が気になった。

(NHK側)

ほかの番組にも共通する貴重な意見を頂いた。視聴者にどのように映るのかを意識して制作にあたりたい。

- 2月18日(日)の「第5回全日本ブレイキン選手権」を見た。採点の基準が分かりにくい中で、解説を通して評価のポイントが理解できた。今後のアーバンスポーツにも注目してほしい。

(NHK側)

パリオリンピックでブレイキンを放送する際も、競技のルールが理解しやすくなる演出を心がけたい。

- 2月18日(日)の「第5回全日本ブレイキン選手権」を見た。大変感動した。NHKホールで開催し、若い人たちの興味を集めたこともよかったと思う。若い世代のSNSなどでの反響を分析し、活用して行ってほしい。

(NHK側)

「第5回全日本ブレイキン選手権」では、大会の中継とあわせて子ども向けの体験教室のようなイベントも行った。次回以降は、このような若い世代へ向けた取り組みの告知も含め、より力を入れていきたい。

- 「ブラタモリ」を見ている。3月末でレギュラー放送に区切りがつくということで、大変残念だ。アーカイブの放送に期待している。
- 2月18日(日)のドラマ「舟を編む ~私、辞書をつくります~」(1)を見た。原作の小説とは時代設定などが異なり、スピンオフ作品のような感覚で見始めた。

徐々に登場人物たちの苦悩や奮闘ぶりが描かれ、重厚感のあるストーリーになっていたと思う。SNS上で心ないことばが飛び交う現代、一つのことばを大切に作る編集者たちの姿勢に大変共感した。原作者とテレビドラマの制作側との見解の乖離（かいり）が社会問題になっているが、このドラマは登場人物のイメージや編集部の雰囲気原作に極めて近く、作品本来のテーストを大切にしようという誠意を感じることができた。今後の展開が楽しみだ。

（NHK側）

原作者、脚本家とコミュニケーションを取りながら進めている。原作をもとに、一つ一つのことばをドラマでどのように描くのか、専門家の意見も聞きながら脚本作りをしている。

- 土曜ドラマ「お別れホスピタル」を見ている。医療を扱ったドラマが数多くある中で、療養病棟が舞台になることは珍しいと思う。重く暗いシーンも多いが、人の温かさに触れ、心が動かされるすばらしい作品だ。家族の1日でも長い延命を希望する人もいれば、延命治療を望まない家族もいる。一方の視点に偏るのではなく、フラットに受け止められる描き方をされていて、すばらしいと思った。4話で完結してしまうのが寂しく感じられるほどだ。最終回も楽しみにしている。

（NHK側）

NHKプラスで、「土曜ドラマ」枠では過去最高の視聴UB数を記録した。質の高いドラマだと評価する声も頂いている。ベテラン俳優の演技も作品の評価につながっていると思う。最終回も楽しみにしてほしい。

- 連続テレビ小説「ブギウギ」を見ている。何度も繰り返し見たいくなるドラマだ。リベラルな思想を持つ親などからは、この時代の「連続テレビ小説」は女性の地位が確立されていない頃のストーリーなので、ドラマを見せることで子どもたちにそのような価値観をすり込みたくないという話を聞く。しかし、主人公のスズ子からは全くそのようなことを感じさせず、子育て世代も共感を寄せているのではないかと思う。動画配信サイトで公開している歌唱シーンの動画もよく見られている。今後の放送も楽しみにしている。

（NHK側）

歌唱シーンには日本の演劇界で活躍する演出家、音楽家も関わり、舞台演出としての完成度を高めている。音楽は世代を超

えて引き継がれていくものだと改めて感じている。

- 1月20日(土)のE T V特集「ガザ～私たちは何を目撃しているのか～」を見た。ガザが“天井のない監獄”と呼ばれるようになった経緯や、ハマスが住民の支持を得た背景について、落ち着いた語り口で丁寧に伝えていた。ガザの難民キャンプで生まれ育ち、パレスチナの社会と文化を研究するガーダ・アギールさんからは「私たちは隣人として生きていけるはず」ということばで、未来が語られた。番組の最後は、匿名の地元ジャーナリストの「すべての人間が内面を破壊された」という発言で締めくくられていた。ガザの問題について理解を深めたい人は必見の番組だと感じた。

(NHK側)

この地域を長年取材しているジャーナリストの土井敏邦さんが撮影した映像をもとに、ガザの市井の人たちから見た戦闘を伝えた。今後も引き続き取り上げていきたいテーマだ。

- 2月3日(土)のE T V特集「二風谷に生まれて ～アイヌ 家族100年の物語～」を見た。アイヌの伝統が色濃く残る地域で、アイヌの権利回復運動の先頭に立って闘った祖父の故貝澤正さん、その跡を継いで運動に尽力した父耕一さん、そして、運動に身を投じてはこなかったが、家業の農業を継ぎ、アイヌ文化の継承にも少しずつ取り組み出した太一さんの、親子3代が主人公だった。一つの家族の物語を通して、虐げられたアイヌの歴史と現在地が分かりやすく伝わってきた。立派な祖父と父を持った太一さんの葛藤は、アイヌに限らず、同じような立場に置かれた若者のリアルとして見ることもできた。若いアイヌの男女が「自分の世代で差別はない」「生きづらさを感じたことはない」と語る場面もあった。差別が隠れて残っているのであれば鋭く切り込んでほしいが、単なる同化ではなく、ルーツの多様性を認めたいうえでの寛容が広がっているのなら、よいことだ。太一さんにはアイヌアートの作家の姉妹がいたはずだ。登場人物に彼女を加えたら、家族の物語により幅が出たのではないかと思う。

(NHK側)

太一さんの姉妹は、現在は地元を離れて暮らしている。地域の歴史的な経緯を回想するストーリーだったので、今回は登場しなかった。

- 1月16日(火)のハートネットTV「瞽女(ごぜ)唄が響く」を見た。盲目の女性

旅芸人である「瞽女」の歴史は、室町時代にまでさかのぼるという。1年の大半を旅に費やす、大変厳しい営みだが、社会福祉など存在しない時代に、今で言う視覚障害者が自立して生きていくためのよすがだった。「瞽女」という存在がなくなった今も、かつて目の不自由な女性の命をつなぎ、その時代時代の庶民の喜びや悲しみを歌った瞽女唄が、105歳で亡くなった「最後の瞽女」、越後出身の小林ハルさんから3代にわたって継承されていく姿は、とても感動的だった。最後のシーンで、3代目にあたる広沢里枝子さんが小学校で唄を披露し、「見えないことは不自由だけれども、決して不幸ではない」と語りかけた。「生きる」ことの尊さが子どもたちの心に伝わっているとよいなと思った。

(NHK側)

「瞽女唄」そのもののすばらしさを伝えたい、障害者が背負ってきた歴史や見逃されてきた大衆文化のようなものを伝えたいという思いで放送した。

- 2月12日(月)の100分de名著「ローティ“偶然性・アイロニー・連帯”(2) “公私混同”はなぜ悪い？」を見た。現代社会は公的な場と私的な場が入り混じっている。そのような現代を生きる私たちにとっての、ローティの哲学の必要性を分かりやすく説明していた。ただし、タイトルに「公私混同」とあるが、一般的な「公私混同」ということばの意味とここで言う意味は全く異なり、ミスリーディングではないかと思った。番組内容の詳しい説明を読めば正確な趣旨が分かるが、番組表のタイトルだけを見ている人には分かりにくいと思う。キャッチーなことばであることは間違いないが、もう少し正確な内容が伝わる工夫が欲しいと思った。また、4回シリーズの放送だが、NHKプラスではすでに過去回の配信が終了している。少なくともシリーズの放送期間中はNHKプラスで視聴できるよう、検討してほしい。

(NHK側)

ローティの思想をなんとかつかみどころのあることばにできないかと考え、「公私混同」というタイトルとした。分かりにくいという指摘を受け止め、今後の参考にしたい。NHKプラスで配信期間終了後に過去の放送回を見ることはできないが、NHKオンデマンドでは見ることができる。

- Eテレの番組は、総じて大変興味深く、知的好奇心をくすぐるものが多い。多角的で、多くの人の興味を引くような切り口で作られていると思う。  
語学番組の「しあわせ気分の〇〇語」シリーズは、言語だけでなくライフスタイル

なども紹介していて、その国への関心を引き起こす。単にことばの習得を目的とするのではなく、ことばはツールであるということを前面に打ち出していて、感動した。出演者の語学力が初級レベルで、視聴者が「私にもできるかもしれない」と身近に感じられることもすばらしい。また、「太田光のつぶやき英語」では、通常の文法学習では触れられないようなSNSに出てくる表現を紹介していて、生きたことばを教えていると思った。

「偉人の年収 How much?」は、お金の観点から歴史上の人物の人生観や業績をひも解くという切り口がおもしろい。2月12日(月)の「文豪 夏目漱石」では、これまでの番組では見られなかったような視点で夏目漱石の生涯を知ることができ、漱石の印象が変わった。総合テレビの「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」も、「あらゆる金額を可視化して現代社会を学ぶ!」という番組コンセプトのとおり、納得できる内容でおもしろいと思う。

2月17日(土)のマチスコープ「耳をすませば」の再放送を見た。改札の位置を知らせる音や信号機の「ピヨピヨ」という音の秘密など、世代を問わず誰が見てもなるほどと思える内容だった。Eテレの多様な番組に今後も期待している。

(NHK側)

「太田光のつぶやき英語」は、世界的な話題や著名人のインタビューを取り上げるなど、単なる語学学習ではない番組を目指している。一方で、「NHKゴガクアプリ」やラジオでは、従来通りのテキストを中心とした内容を届けている。全体的に、その国の文化も含めて語学に触れることを目的に取り組んでいる。

(NHK側)

「偉人の年収 How much?」と「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」は、いずれもお金の面から世の中を見る番組だ。品性を保った内容になるよう、また、企業や商品のPRにならないよう配慮しながら放送している。

(NHK側)

「マチスコープ」は幼児を対象にした番組だが、家族で見ても楽しめることを目指して放送している。

- 「いないいないばあっ!」や「おかあさんといっしょ」などの子ども向け番組を見ている。音や色がはっきりしていて、子どもが集中して見ることができる。朝の忙し

い時間帯や、夕方の子どもが泣きやすい時間帯に放送しているので、子育て世代は助けられていると思う。親になってテレビとの付き合い方が変わる人は多いと思うが、その中には乳幼児へのテレビの見せ方に悩む人もいると思う。若い世代の視聴者を増やす一つの切り口として、子育てにおけるテレビの活用法も発信していったらどうか。

(NHK側)

番組だけでなくそのような活用法についても発信していけないか、今後検討していきたい。

- 2月8日(木)のフロンティア「東洋医学とは何か」を見た。鍼灸(しんきゅう)や漢方薬など、東洋医学に関する最新科学を精力的に取材していたが、ややメリハリに欠ける印象だった。また、東洋医学は奥が深い一方で、疑似科学と隣り合わせだというリスクもある。慎重に取り扱わないと東洋医学のよい部分に対してもネガティブな反応を呼び起こすことがあるので、注意が必要だ。

(NHK側)

指摘を頂いたとおり、論文の信ぴょう性などについては慎重に確認している。引き続き、そのような点に注意していきたい。

- スマートフォンでNHKのSNSを見て、ニュースをチェックしている。NHKの「政治マガジン」は、雑誌の広告のようなデザインでニュースを掲載していて、挑戦的なホームページだ。トップページの一つ一つのコンテンツがおもしろく、つい読んでしまう。「ねほりはほり聞いて！政治のことば」というコーナーでは、Eテレの番組のキャラクターが難しい政治のことばを分かりやすく解説していて、参考になる。これからもこのホームページに期待している。

(NHK側)

「NHK政治マガジン」を活用してもらえたことに感謝する。これからもさらに政治ニュースに触れてもらえるような方法を模索していきたい。

NHKメディア総局メディア編成センター  
番組審議会事務局